

望遠鏡観測部門報告 Report of Telescopic Meteor observations in October,2016. No.392

担当幹事 殿村泰弘 (Tonomura Yasuhiro) 宮城県富谷市 (Tomiya-shi Miyagi-pref,Japan)

2016年9月の望遠鏡観測の結果を(表-1)に示します。今月も寺迫氏からの観測報告がありました。

観測者 Observer	観測地 Locality	夜数 Night	時間 Time	流星数 Meteor			備考 Remarks
				Plot	S' n	Total	
寺迫 正典 (Terasako Masanori)	静岡県浜松市北区 (Hamamatsu shizuoka-pref)	2	170	-	67	67	25cm×34 2.2° LT.
2016年10月計		2	170	0	67	67	HR 23.6

(表-1) 2016年10月の望遠鏡観測結果

Table 1 Summary of the Telescopic Meteors Observations in October 2016

● 出現数状況

2016年10月の出現数変化を(表-2)に示します。

UT														観測者 (Observer)	
日	開始 JST	終了 JST	分	中央時	観測方向 (Direction)	Plot	Seen	Total	HR	Mag	See	CI			
24	18 30	19 20	50	24.413	Cyg,Lac,Cep,UMi,Cam,UMa	-	19	19	22.8	11.5	rG		25cm L.T. *35	寺迫(Terasako.M)	
24	26 52	27 52	60	24.765	Aur,Cam,Lyn,Cep,UMi,Dra	-	16	16	16.0	12.0	G		25cm L.T. *35	寺迫(Terasako.M)	
27	18 25	19 25	60	27.413	Cyg,Peg,Lac,Cep,UMi,Cam,UMa	-	32	32	32.0	11.5	rG		25cm L.T. *35	寺迫(Terasako.M)	
2 Night							0	67	67	23.6					

(表-2) 2016年10月の望遠鏡流星の出現数変化

Table 2 Telescopic Meteors Observational data in October, 2016

● 光度分布

2016年10月の望遠鏡流星の光度分布は、(表-3)に示すとおりです。

	-5.0	-3.0	-2.0	-1.0	0.0	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	L-Mag	Total	Avg Mag.	
寺迫 (Terasako.M)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	12	42	10	0	11.5-12.0	67	11.38
Total	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	12	42	10	0		67	11.38

(表-3) 2016年10月の望遠鏡流星の光度分布

Table 3 Magnitude distributions of the Telescopic Meteors in October, 2016

寺迫氏が、2夜170分の短時間の観測で、67個もの多くの流星を捉えています。氏からは、報告と共に以下のコメントを寄せていただいています。原文のまま紹介します。

ところで、予てより10等以下の微光流星の出現状況に興味を持っていて、特に、夕方と明け方との比較が最大の関心事です。同じ望遠鏡を使用し、同じエリア空間を観測するもので、方法は前にも報告しましたように、天頂より地平線に垂直に望遠鏡を動かします。そのような事で、24/25にようやくその機会ができ、北の方角を観測しました。結果は報告のとおりです。

最微光星は、北極標準星野により、パット見で決定しております。従って、天頂付近の最微光星は更に暗いものが見えていますが、あえて、北極標準星野の最微光星に合わせ観測報告しています。24/25の明け方は23.7の月があったにも関わらず、12等の星が見えましたが、夕方と比べ、やや低調な出現でした。

ところで、27/28の夕方、矢張り、北の方角を同じ要領で観測しまして、非常に活発な出現がありましたので、大雑把な出現位置をプロットしたものも送信します。

やや「ケフェウス座」付近に集中しているようにも見えますが、関連性は、定かではありません。以上、報告致します。

8日朝の60分間の観測で20個の流星を捉えました。HRで20という数字はちょっとした流星雨といえます。しかも2.2度という狭い視野での観測です。次の日も同じ程度の出現を確認されています。しかし機材を15センチ双眼鏡に代えてからは、捉える流星が少なくなりました。これは12等程度の暗い流星が多かったためと思われます。

氏からは、添付ファイルで、捉えた流星の大まかな位置を記録した星図を送っていただいておりますので、次ページで紹介致します。

● 幹事から

11月中旬以降、休日返上で仕事をしていますので、月末になってようやく10月の観測結果をまとめることができました。

12月も例年にも増して、多忙な月になりそうです。自動火球パトロールカメラの画像の確認と報告だけになりそうです。

(2016年11月30日)

図 1 寺自氏が捉えた流星の大まかな位置

